

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日時	令和5年2月8日 午後1時30分から午後2時20分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	酒井会長、長谷川副会長、浅川委員、阿部委員、表委員、片桐委員、小池委員、笹森委員、下村委員、杉原委員、高井委員、竜野委員、土屋委員、西澤委員、宮下委員、山崎委員
5 市側出席者	室賀健康こども未来部長、小須田健康推進課長、水野子育て・子育て支援課長、山崎保育課長、長田学校教育課長、清住市立産婦人科病院医事課長、中村保育担当係長、宮下放課後こども育成係長、遠藤母子・精神保健担当係長、吾妻母子・精神保健担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、渡辺子ども家庭福祉担当係長、春原子育て・子育て支援担当係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	3人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和5年2月9日

協議事項等	
1 開 会	(水野子育て・子育て支援課長)
2 あいさつ	(室賀健康こども未来部長)
3 議事	(1) 中間年の見直し(案)に対するパブリックコメント(意見公募)の結果について【資料1】【資料2】 事務局から概要説明 質問・意見なし  (2) 第2次上田市子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて【資料3】 事務局から概要説明 質問・意見  (委員) 信州上田医療センターと市立産婦人科病院の機能の集約については、多くの方々の御協力のもと行政の方々や市民の方々の御理解をもって進んでいると理解している。少子化対策も含めて市民・行政・医師の歯車と一緒に動いていかないとなかなか進まないのではないかと考えている。現場の医師は長年により何十時間もずっと病院にいるような勤務をしてきたが、今後、医師の働き方改革が2024年施行されるなど、これまでより状況が変わっていることをご理解いただきたい。 今後の社会の動きとして、高齢者が増えることで社会や医療構造の変化が起これ、高度救命救急というよりも、高齢者の救命救急というようなものが増えてくる。それを背景にして少子化が進んでいき、今後20年で4分の1くらい減るのではと思っている。そして産婦人科の成り手が少ない。それは訴訟などの様々な問題や、女性の産婦人科医が50%を超えてきて、自身の出産といったこともあると思う。 2024年の法改正、さらに2036年の法改正も決まっており、2036年にはどういことが上田に起こってくるのかちゃんと調べ、今からそれに向かって進んでいかないといけない。 前の会議で生殖補助医療の話が出たが、これは年齢が高い方の妊娠を促すことを目的としていない。40歳を過ぎた方の生殖補助医療の妊娠率は10%以下、流産率は対数的に上がっている。月経困難症、

月経不順、子宮内膜症などで妊娠しにくいような状況、男性の精子の減少といったことも発見して、無事に妊娠につなげる医療を目標にしている。そのためには医師が来るような地域であってほしい。

少子化について、赤ちゃんを産んで、子どもを育てるってすごく大変なこと。そういったものもしっかり評価することを考えてやってほしい。

(委員)

2024年、2036年の法改正について教えてほしい。

(委員)

2024年は医師の時間外労働の規制が入る。年間960時間以内に抑えることになっている。ただ、夜勤があっても帰ることができない状況もあり、年間1860時間、それをB水準としている。連携B水準というのは、医療センタークラスの大きな病院が時間外を増やして対応している。C水準というのは、産婦人科だけでも分娩・ガンなどの腫瘍・生殖補助医療・月経困難症も含めた女性のライフスタイルの4つのエリアがあり、この4つの責務をこなすための時間外を1860時間以内でやるというもの。

2036年はすべての医師が960時間以内に抑制するというもの。地域の医療が豊かに、というものが、どうなるかと思っている。

(委員)

子ども子育てを取り巻く問題というのは非常に複雑。保育の分野も、医療の分野と課題として共通する部分がある。医師が上田に来るような地域という話のように、子どもを取り巻く専門職、専門家が上田に来て働きたいと思うような地域になっていけばいいと思う。

(委員)

医療者を確保するための上田市の奨学金制度はあるか。

(事務局)

医師・看護師確保ということで、学生にこちらに勤めてもらうという要件を設けた制度はある。

(委員)

それで実際に上田で働いてくれる医師はいるのか。

(事務局)

医師の病院の配置については、信州大学の医局から医療センターに配置されるかたちになっているので、その連携の中での医師確保という状況になっている。

(委員)

医師確保については、上田地域内の病院で仕事をするという約束で、行政からいくらかの支援を受けている。頑張っている若手、能力がある中堅、年を重ねて経験がある、といったものをバランスを取りながら見ているのが大学の医局であることを理解して欲しい。今まで医師が1人でやっていたことを3人くらい必要になってくるので、上田市には今の奨学金の制度を極力続けてほしい。

(3) 今後のスケジュールについて【資料4】

事務局から概要説明

質問・意見なし

(4) その他

私立幼稚園の新制度移行について

令和4年度小規模保育事業所整備事業の実施状況について

事務局から概要説明

質問・意見なし

4 閉会